

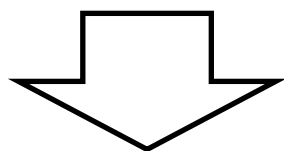
市立幼稚園の方向性について

平成30年5月24日 学校教育課

幼稚園統廃合の再検討

これまでのスタンス

東部と西部に公立幼稚園を1園ずつ建設

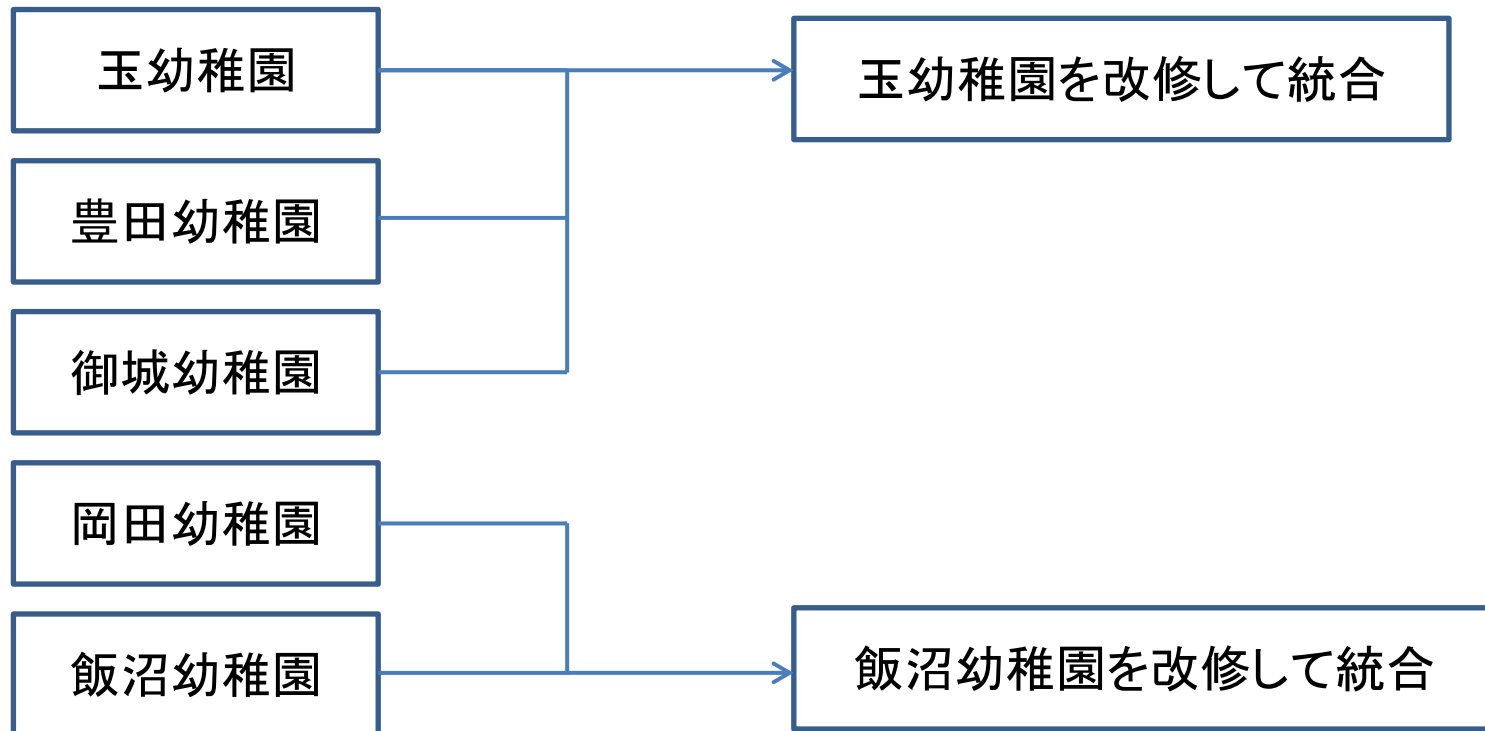


3～5歳児人口の減少が見込まれる10年後, 20年後においても安全安心で, 園児が生き生きと生活できる効果的・効率的な幼稚園運営を目指す

再検討後の学校教育課案

地区	統合案
東部地区	玉幼稚園を改修し統合
西部地区	飯沼幼稚園を改修し統合

東部1園，西部1園を改修して統合



迅速な市立幼稚園統廃合の必要性・効果

園児の減少

東部地区園児数(玉・豊田・御城幼稚園)

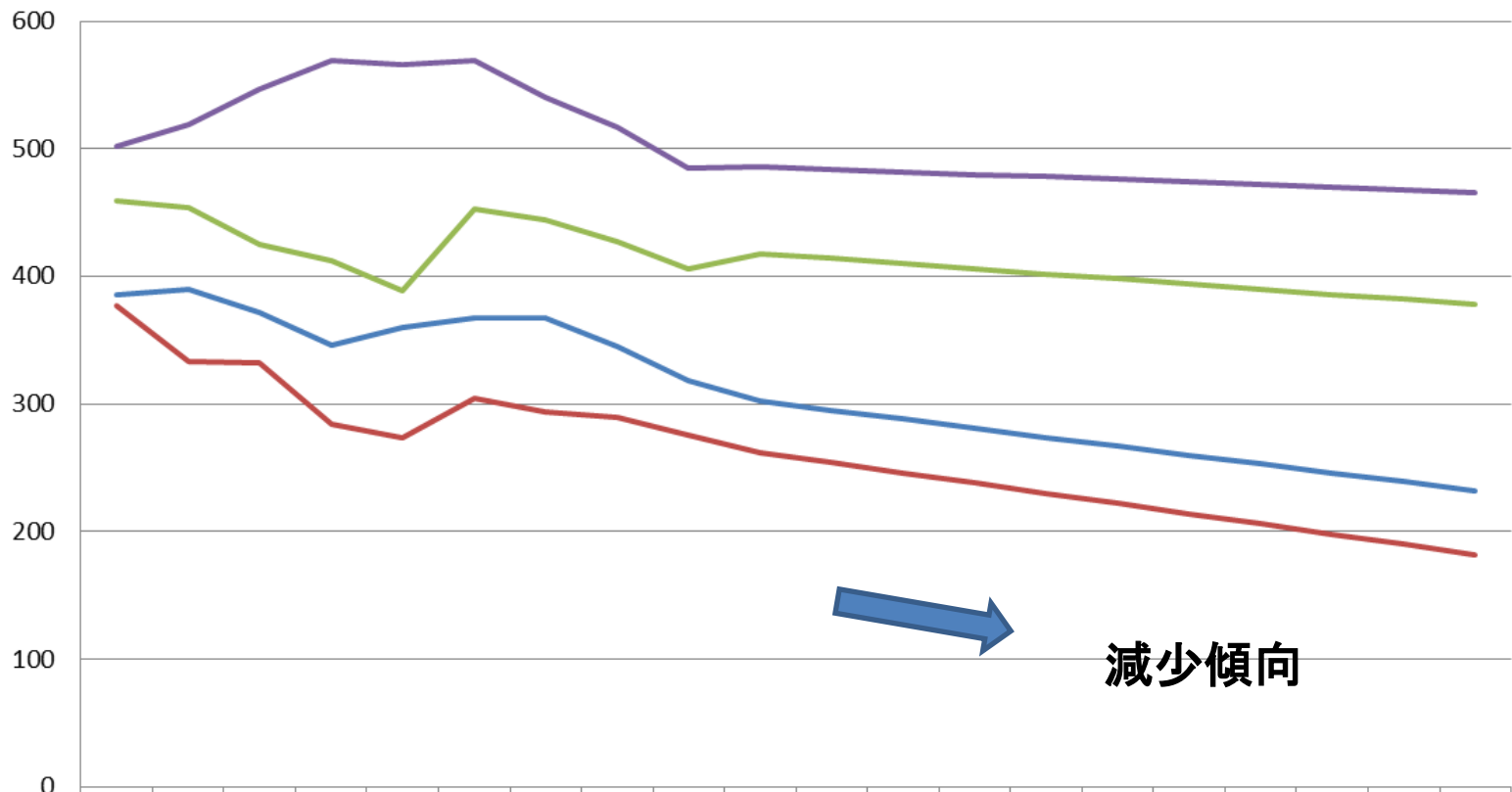
- ・ それぞれ約30人
- ・ 御城, 豊田は新入園児10人を切るクラスができる見通し

西部地区園児数(岡田・飯沼幼稚園)

- ・ 岡田約80人, 飯沼約70人

東部・西部とも, それぞれ1園で受入可能

3～5歳児人口の推移と予測



減少傾向

	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	平成 32年	平成 33年	平成 34年	平成 35年	平成 36年	平成 37年	平成 38年	平成 39年
— 石下東部	386	390	372	346	360	367	367	345	318	302	295	288	281	274	267	260	253	246	239	232
— 石下西部	377	333	332	284	274	304	294	290	276	262	254	246	238	230	222	214	206	198	190	182
— 水海道東部	459	454	425	412	389	453	444	427	406	418	414	410	406	402	398	394	390	386	382	378
— 水海道西部	502	519	547	569	566	569	540	517	485	486	484	482	480	478	476	474	472	470	468	466

多様化する教育ニーズへの対応, 資源の確保

人口減少対策＝子どもを産み育てやすい街づくり

⇒多様化する教育ニーズへの対応

- 妊娠・出産期の支援の充実
- 保護者の就労状況に柔軟に対応 など

しかし 人口減少による財政規模縮小

インフラの維持更新のため費用増大

統廃合により生まれる資源を教育環境改善に活用

幼稚園の老朽化（現状）

- 5園とも建設から30年以上経過⇒耐用年数超過
- 耐震診断を行っていない⇒地震による被害
- エアコンが完備されていない⇒熱中症の危険性



市立幼稚園統廃合の視点

- 幼小連携の推進
- 保育所ニーズの増加，幼児人口の推移により幼保一元化の可能性も視野に入れる（施設の拡張性）
- ここ10年間の3～5歳児人口の減少率は20～30パーセント，10年後の園児は東部約70名，西部約110名と予測
- 厳しい財政状況において，実現可能な，将来の負の遺産とならない方策が求められる

統廃合により期待される効果1

○子どもたちがいきいきと生活できる教育

・幼児と児童の交流

・幼稚園教諭と小学校教諭の協力体制の充実

・指導体制の充実(二つの園に教諭を集めることにより、園児により目が行き届くようになる。)

・防災教育の充実

統廃合により期待される効果2

○安全安心な施設が整備されます。

・施設の耐震化

・空調設備の整備

・衛生設備の更新

・老朽化の解消

スケジュール(予定)

○平成29年度

- ・1月 総合教育会議
- ・2月 議会説明 * 議員全員協議会
- ・3月 子ども子育て会議

○平成30年度

- ・4月から5月 PTA説明
- ・6月から12月 耐震診断(玉幼稚園, 飯沼幼稚園)

○平成31年度

- ・6月から12月 園舎改修実施設計

○平成32年度

- ・園舎改修工事

○平成33年度 開園